

財源多様化に向けた取り組み

東海機構コモンズ債の発行

2023年6月、東海国立大学機構初の債券である「東海機構コモンズ債(サステナビリティボンド)」を発行

「知とイノベーションのコモンズ」に向けた環境整備を推進するため、東海機構として初の債券発行による資金調達を行いました。これまで40年債のみであった国立大学法人債において初となる20年債の発行であり、新たな国立大学法人債の形を示すことに成功しました。

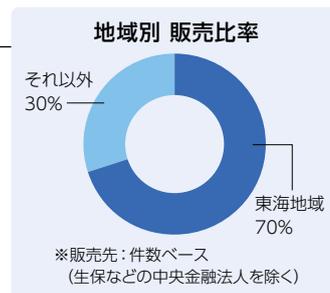
東海機構コモンズ債の概要

項目	概要
名称	第1回国立大学法人東海国立大学機構債券(愛称:東海機構コモンズ債)
発行額	100億円
年限	20年
利率/発行価格	1.187%/100円
条件決定日	2023年5月26日
償還日	2043年6月2日
格付	AA+(株式会社格付投資情報センター(R&I)) AAA(株式会社日本格付研究所(JCR))
サステナビリティボンド フレームワーク	フレームワークの詳細は下記リンクを参照 https://www.thers.ac.jp/news/upload/20230301_ri.pdf
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター(R&I)
充当事業	【知とイノベーションのコモンズ創成事業】 事業①:世界トップ研究者が集う知の“梁山泊”の整備 事業②:学内外・国内外と繋がるインクルーシブな人材育成拠点の整備 事業③:生命科学分野における強みを結集した創薬シーズ開発・育成拠点の整備
SDGs目標	ソーシャル性、グリーン性を併せ持つサステナビリティボンドとしての発行 SDGs目標4、7、9、11の達成に寄与



債券発行におけるIRとその成果

- 東海機構初の大学債発行であると同時に、大学債では初の20年債を発行
- 東海地域の投資家が中心となる形で幅広い業態の投資家が東海機構コモンズ債を購入
発行額100億円に対して、約3.5倍となる350億円に迫る投資家需要を獲得
 - 金利が低下傾向かつ金利変動性が高い環境の中、投資家との丁寧な対話を行い、大幅な超過需要を獲得することに成功
 - 東海地域の投資家を中心に56件の投資家が参加
 - 投資家業態は、生保、信託、中央公的、地域金融機関、公的機関、学校法人、事業法人など
- 債券発行を通じた、投資家へのプロモート活動の実施～投資家との個別IR、セミナーIRの開催～
東海機構の現状、取り組み、そして、大学債の発行を通じて今後目指していく未来を機構長自らが投資家に説明し、投資家の理解と共感を得ることに成功
 - 生保などの機関投資家に加え、東海地域の投資家を中心に個別IRを実施
 - 投資家との個別面談は44件程度、セミナーは約90件程度の投資家が参加
- 債券の条件決定後に、記者会見を実施、複数メディアに大きく取り上げられ、地域社会に対して訴求することを実現
 - 条件決定日(5月26日)10時より、東山キャンパスにおいて、初回債発行にかかる記者会見を実施
 - 各種メディアにおいて、初の債券発行に関する記事が配信され、またNHKでは記事とともに動画で記者会見の一部が配信された
- サステナビリティボンドとして多数の投資家から共感の獲得に成功
東海機構の取り組みに賛同した投資家の内、49件が投資に関する表明を実施
 - IR活動を通じて当機構の取り組みに共感、多数の投資家が投資表明を実施、東海地域からも多くの投資表明を獲得



資金の充当状況に係るレポート

充当事業

発行額	充当額			未充当額
100億円	事業①	事業②	事業③	100億円
	未充当 (充当予定時期：2026年度)	未充当 (充当予定時期：2024年度)	未充当 (充当予定時期：未定)	

※1 2023年11月現在の充当状況は上記の通り ※2 未充当残高については、現金または現金同等物にて適切に管理・運用しています。

各事業の概要、着工/竣工予定は下記をご参照

事業① | 世界トップ研究者が集う知の“梁山泊”の整備

～世界トップレベルの研究成果創出・学際的新分野の開拓・卓越した研究者の育成～

LYKEION*プログラム (LYKEION棟)：アカデミックインパクトを最大化し、人類知の高度化を実現するために、卓越した研究者が集い、新しい学術分野を切り開く“知の梁山泊”となる施設の整備

- 国際的に卓越した研究の展開にあたり、世界から卓越した研究者を招へいし、世界基準の魅力的な**研究環境**を整備・提供し、新分野創成につなげる
- 萌芽拠点から拠点形成、国際拠点まで研究のゆりかごでの拠点育成することで、世界中の研究者が訪れたいくなる世界トップレベルの卓越研究拠点群 (World-class Critical Mass) の形成を実現するための**施設整備**
- 大規模学術フロンティア事業として国から認定された世界最先端研究である「ヒューマンライコムプロジェクト」の活動拠点となる**施設・設備の整備**

スケジュール (予定)

2023年度	LYKEION棟 (仮称) 設計中
2024年度	着工 (予定)
2026年度	竣工 (予定)

*LYKEION (リュケイオン)：紀元前4世紀にアリストテレスがアテナイに開いた、いわゆる高等教育の場

事業② | 学内外・国内外と繋がるインクルーシブな人材育成拠点の整備

～両大学の学生や研究者・地域・企業など多様な「人」と「知」の共創を促し、さらなるイノベーションを創出～

東海機構プラットフォーム

- アカデミックcommonsの中心的な存在として、ICTにより各キャンパスの教育施設と有機的に連携。教育改革 (高度化・多様化・国際化) を強力に推進するための**施設・設備整備**
- オンサイト・オフサイト両面でキャンパスの中心に位置し、両大学の学生や研究者・地域・企業に開かれた、「人」と「知」の共創を促進する**環境の整備**
- 教育に限らないあらゆる分野において、両大学の強みや特色を融合させる**場の整備**

スケジュール (予定)

2023年度	東海機構プラットフォーム (仮称) 建設工事中
2024年度	竣工 (予定)

事業③ | 生命科学分野における強みを結集した創薬シーズ開発・育成拠点の整備

非臨床研究における「魔の川」を克服すべく、創薬シーズの評価・分析、疾患モデル動物開発・非臨床研究、先端医療機器開発および感染症研究開発の諸機能を集約し、創薬の基礎研究から非臨床研究まで一貫通貫で推進するため、医獣薬一体型非臨床研究施設の整備を行う

- イメージング機器などの**設備整備**
- 先端医療機器と連携した疾患モデル動物の作製・飼育、感染症研究のための動物飼育を可能とする**施設整備**
- 比較研究を通じた病態解析や治療標的の特定、創薬シーズ研究に専念できる**環境の整備**

スケジュール (予定)

2023年度	整備内容の検討
未定	着工
未定	竣工

インパクト・レポート

今後、各事業の進捗状況に応じて以下の事項をレポートする予定です。

ソーシャルプロジェクト	アウトプット：設置した施設の概要、プロジェクトに関与する研究者・学生数 アウトカム：このプロジェクトで生み出された論文数、社会的成果の事例 インパクト：「知とイノベーションのcommons」として、地域と人類社会の課題解決に貢献するための事例
グリーンプロジェクト	取得予定の環境認証、レベル、CO ₂ 排出量